六根清淨太秡松風抄

特別
イ4
3163
170

貴
14
3163
170

六根清淨太祓松風物

此祓者天児屋根尊十九世常盤大連人皇
三十代欽明天皇の帝字儒仏の二教雖殊廣
通玄来してあり。然だ二本よりなる異教のそ
来れ吾神國の道の妨に可成機と知るべし。
其教とても根源元二貫貫故に神
也と神也とし。神乃と神乃とし。神孫と神
とし。天照太神の御命のごく。吾子孫のて

号の玉として三種十種は神宝まで使へ来る也
神道にも肝べき道の度なり繼しつけ
也ば捨親鉄鉄捨本鉄未だ若為数ぬ成に若事
と思ひて捧まつる数也ば神宣ハ後鳥羽命へ
人皇十二代雄略天皇の御宇ぞ。九一年十一月
彩雲舎の新神宮生まるる法度の貴月なれば。
此神宣の示数ハ入て入事なり。数
とても云葉かつりたるまでなり隠顕理密絶一

雄の神乃と申とて天数も個色の為
ふを用ひさせまつべきなれに神宣の事ハ化
経の文句とも用ひく解釈しまつる是随所の
道れ引導也。異舎傷心神とは。神宣の示
ハ美数れ文字言句とぬまをまとはく
神乃の主源と那さんぐる為ハ神宣の意密
深密の解釈也常般大連と申ハ天児屋根
命の神孫的く相義の系ゆく神道こそ

大事。神代ハ木綿作幣の表まして祈神
ゝ師職ハ身なれど君恩と荷擔とし。
國家の大事と可成事と中させたまふべき
不叶師家也

六根

ハ眼耳鼻舌心意人と
ゝく此六根なきものハ。能用ゆ時ハ主
寶ゆゑて非人なり。邪辟なる時ハ乱臣賊
子となる。六門を護の神と祭り心都靜潔の
改変正き時ハ六窓れ盗賊散失情念情欲

放逸怪なる時ハ。神室為之被燒心神ハ法産
立所よりくなり。雜染迷悔不停。後ゝ障災難招
幸福指淨而為清淨の神寶之ゆの加持も
徒へ空きのゝ神經也。六根の根ハ夏ゆまれでゝ
緣とる双嫌ゝ敏嫌ゝ腦中ゝ鞭棘と切拂時ハ
神祐ゝ寶得嫌ハ無。為よりゝ。問清淨
外清淨の神祇不淨と八悪念無事乱濁
情欲情疑躊躇おと濁不淨

清淨

ゝ六淨

ゆゑの名なり。不淨と拂ひ去らせば清淨
なり。清淨もなし。甚清淨もなしとあの清
淨ゴ清淨の本体なりぬ体なり。

祓

伊弉諾伊弉冊尊の陰陽の交會喜哉愛情
なり。問ふ祓も書紀つゝ。愛念と欲一切の
執著を祓ふそなへ雖斷切感圓成の神乃ハ
太祓神人不二天人合德可仰可信神教也。
太祓とは太の字ハ天照太神ゴ御神宣し

いひ諸乃の眼目なれ。太とは太ふ射をるゴ
大ゆゑあり。

天照皇太神乃

とハ地神の最初
天下ゴ主神也。人皇十一代垂仁天皇乃御宇
倭姫命御神勅伊勢國度會郡五十鈴の
川上に御宮倭姫命ハ垂仁帝の皇女御
年命七百歲。

宣久

とハ神明の精神祈念と
なり。して久しく皆神体也。ゆゑ体のゞ
ものゝ和紙ハのゞ。永くよ及ぶのゞ。たまゝと

精神をふかくこの事に心を祝詞を讀
友よ天照太神は直にうむ人の心中までも
隙あるべ隙あるべ隙あるべ之 幾七雖も消滅
不敬も成敬をうり畏哉〳〵可信〳〵
慎み勿怠矣

人は則天下の神物を祭り人者
太元尊神と分身なる神にも通達而
天神七代地神五代と神道と別に金具を
もうけ天下は神物なりこの神宣を

次第は神代をうく道なれば神なりと下
の不信あり人を指て人を神道知光
霊妙は上下は陽てうり人を更なる神意
とは忘れてもあまりにもまどさは我ら
神道しの要事は
人多し人は中にも人なり
人なれ人にしてはなり
常磐大連此祝詞を奏達し

須臾掌手靜謐と

人貴紀は来代と思うく者としては天下は

靜穩と雲まのごとくなり。爲天下之君
百姓を赤子のごとく親愛志ふかく實の聖帝なり。
伊勢神の神勅を不忘我爲法家人民風
雨順時又穀熟能能之人愛雜なるこゝに天神
地祇の祭祀をとゝのへ分のごとくなり。天照太神
春日大明神の授とゝのふ政勢とのゝ
天照太神の尸として億兆の心中邪清淨れ
稜威いひ德の神事はいなれ天の

稜威意に能くく政勢を爲り給ふ捨給
ふ八洲爲天下之帝道只一分の愛別又民
民も家業獵分を捨給ふ樂と味ひ授民
ゆなりてゝいよくく安家不靜穩なりはれ
大連の如微意未未なる臺徒宣華驕動
腐根樹の立草はれ垣とも絶止さるゆゑ
邪智形見る通要逆れ学未代より出来國の
大病と可成事の所示今觀察する天連

の如く智愚不変夷而被蠻於千夷種乃想
形と好こ。吾国は本の姿と陋駿。神宮祖神本
吾とも不拝札寺とも仏交不交ても稼不よ
拝る此草俗世に多し。神明と仏并せ此の
如くし。姫小無跡まで云ふ。玉葉集
神祇之部より歌を撰ひて慈鎮和尚
体かを外ぞ引けのこちらぐ
わとかりつとはのくりいて
かう拝を拝ふ裏神事れ札り傷尼重

将服し筆不可ることを参入矣と分明なる事
うつふ。初安壮徴本の神象在とこ。なて
神体も近付本朝の神祭までも取行変
との異論とをろ邪僧あり。釈門ようても
亡根不浄の人と可謂。為貴神賤こ の意
可恥辱事也上宮大も異教と吾朝よ
用ひても。末の代に事思ひて國と日本と云
天竺と月の西とひ漢土と異の西と云ふ

いくい天竺に花寶とのひ震旦と枝葉を
しの。月氏と根本と言へり。垂迹天皇の勅
定より西方に佛法とゆたの尼とし。儒道と右
の尼とをとのり。亦平城天皇第一に所子高岳親王曰
異朝に法とゑんく吾神國に授とうくやちろ
君ハ是吾必の宝なりの國に法とゑんて。
吾神必に授とおろそんゑん者ハ國賊也
熱田大明神に神祇天ゐ下の出人ゑ也

神明の恵きみとに法多にしりて天を定と
し。迹と垂とし。方物をりん示として根の
遊とをなに山神に三界にまをわを
楽ゆん亦白山比叡に神祇より吉國
ハ三界に中にまをくに言る所也故に法乃
神明諸の法きん人ゑうたま寶と玄文
なり。亦住吉大明神に神祇に吾必の
人ゑ吾神に子也親の数と失ひてわゑぬ

うとれ数かきるごとい者ゑにのりて。者ゑに
あるねだかもきるにうまなり。竜天てうを
ここの数なり。者ゑうふ。西人へよ。たりもてすりて
とぐ。示大穢冠多武峯大明神神統のうう
のうとどとるうひ。西天の数を絶しへて。者用
の本れ神明のことのうをんくふかふかも
うん元生とび我甚ようるうて。或ハみどう
るれ考ひ。或ハ、ちりさ高とはづ事。その酒へ

ものとまうどけ。或ハ火乳神として焼亡
ぜうん。西天震見れ数とへるよハのうど。
本ととて来れ取事と忌ふう。仏法儒乃
も者神道れ間名とものんハ左好ハ。ハなう
神明の捨を儒仏れ間名ともうとうるも
天照太神高貴神の神勅ある。豊葦
原ハ安國と平げハ。元食せとあれで天下れ
静謐と常平のよ人君と始め下万民まで

用が清浄なれば解脱六根の風塵と吹拂
用が清浄なれば職業と勤業分
安和自在なれば世くハ神明の御心よりけるなり。人く我を忘れと思ふ我と忘れ
神明の御心を離れて六根再見れば執著
と不離。縁天地衆人とうるも其天地と清浄なる
神人とうるとも一心より六根を始加結れ結
ゆる事也一偏に我を好む事とそ

ぬぐ實れ神恵の人あるいうる也。太極ハ天
下静謐無変ぬく清なり至寶なり
良薬也

心波則神明乃本乃主他利　如神詑

父体ハ神明の分身一人小天地。天地我。我天地
三方に添しうえ神詑神と性命とうけて
神人不二。是六根れ塵垢して得ぬ生の心也。
心とハ志ゝ為して理氣の精神。如霊詑胎
の路よ。先ゝ為く形貌ハ後ゝ濁也る地下ゝく

也しかるに一身成能の始より主宰定り有
ふ成能也万法の灵源一心より発不見
人倉卒の神智如倉卒影響ある万法の対
て無不変有心神明らかに本の主宰。情欲の
雲霧智日霊光と遮ると一心常闇となり
えくの神源より千万里遠くなりえ
来ハ神明とぞ不二の不とぞ不一敬へまふ神
意雖ちくまりとり。莫令傷心神一とハ天地の

本基心者藏之神渾沌くえ神明之含
りて。非不為是心神也。六根偏氣情
欲情念より誘引成ハ孰若妄念妄情より遠
初して太元なる神源ふ遠背を宰
心神と令傷事。神成と宜罪のハ神
恩ハ。ふくも海より深。義恩慈
ハ父ともやいくん母くやいくん上中下ともに
恩愛と恭かくなり。若ハなくく受恭さる

心神しん神鑑かん若無もしなば終不自知分
辨者也見濁の雲水深くして逆を智日
失光晝如夜此所今傷心神也化〻微
根もなく妙傷心神也化〻微
しつの事也息絶物命し大綱命根し
玉し緒也不孝不忠不義不孔為邪欲時
我れ亦氣心神息のみ損と今傷心神
しつの絶なり

破我相亦魔亦魔〻莫今傷
神靈形象事

しい制禁強神勅人〻五臟の神君子山神
勅と受持て六門六窓し守護神 豊磐窓の命
窓の神と爲〻て神人ふこの神境界と
可為可思。假令心も不今傷心神ゞ感
意神道圓滿神道成就神乃根源
の神人ふく神明の本れ辛と云神也して知
しの五帝者直に天照太神し神勅
のごく。天照太神也人民しても被のかに

求道ハ正可ㇾ為ㇾ内ㇾ清淨なれば妄念傷
心神妄念傷ㇾ心非ㇾ不ㇾ辱ㇾ天地ㇾ我不ㇾ知ㇾ我所
ㇾ神明ㇾ本ㇾ主ㇾ之神聖ㇾ之教の
神道なり

是故仁とハ義上起ㇾ此言葉上ハ神宣下ㇾ
大達の教説神詭の言葉を専心為本而
六根六境六塵六識の法ㇾ絶ㇾ人民ㇾ道
化始終の事なれば心ハ神と明らの本ㇾ

神教と書てのべ記ㇾ文字ハ異朝の文字なれ
ども言葉ハ吾国ㇾ云葉ㇾ心為心道の示ㇾ
一切の道ハ如ㇾ此事なり

同仁諸乃不淨平見ㇾ心仁諸の不淨平不見とも
同ハ見ㇾ事ㇾ識分て森羅万像蠢動含霊
とハ見ㇾ事なり同ハ所ㇾ主ㇾ於肝ㇾ之肝ㇾ也
神ㇾ也ㇾ和ㇾ合ㇾ形ㇾ之ㇾ物ㇾ孫ㇾ孫賢章
石鳥獸草木等ㇾ也撞ㇾ同不見て心ㇾ見ㇾ

とい濁度と心法あやまり心神と傷しる事なり
眼に入れば日月なれども。目死として濁り所深の
名様深おもしろ。若無色邪正と見分ずして
知五色濁目は諸根どうして働所なり。目は耳
まは鼻口を用て聞て見所嗅て見所。言て口所。喰
て見所。賞嘆て見所。歌でんる味て見所。觸てん
所。別くるとしてそんる思ひんるうけしんる
わくれくん所切て見る所裂てん所嫌てんる為

とも家とも国とも世とも治て見所れく
ハ捨てん土くん殺てんたとけんせてん為に
見くく不見とこの心ハ情欲の無見とくひとて、
見とまとりは神法と心宮に籠て事為と
と楽て神戒のごとく可なく
耳に諸乃不浄を聞て見心に諸乃不浄を不聞と
耳者通達古今遠近とする神門也。所主於
腎之賢ハ位北極星の神水為人命耳ハ

水水とつゝ和語といふ。然聴時は悪人も善人
となる。爲政国時は善人も悪人と成天照大神
春日大明神のもちゐ給ふ遺教経教法を妄
に仏の御へ妄の虚しる人の為ひる耳といふものの
なくてもよかるまゝとの思ふいとなに事なり。
男女あるのゝ耳の諸根の源る事は月讀は
生鼻国手徳を祈心のそなたるかもとなり。
きゝへは生活といふ玄関なり。聾耳といふ耳

死たるといふ事の音忠言食言とも字知
独分ざるは耳死といふものなり。甚死る
耳は薬息に良薬は此病なり。八耳とも可
成人の陰声天文吾朝と狂しむる方源書巻
とも懐事にも耳不義悦しめ令傷心神なり。
令傷心神事とも不知。いとなる耳の霊
へ来り。真實と祝し。天照太神の逆臣逆賊
となるとも耳に聞て心よ徳ゆへ耳に聞て心よ

不聽といふ所あり力と入く成とす用事ぞ
神と明るの本主といふ系統繼字獨分耳ハ
所耳あく雜ろ耳なり利

鼻仁諸乃不淨耳嗅天心仁諸乃不淨於不嗅といふ

鼻ハ天氣從末の神門ぞ氣ハ口ゟ入く人ハ命と
結び出あて生長老の壽域となる然ま貴ハ和
十二の時と二時つゝ左右の鼻ハ完ゟ入ハ
八息出息ハ天神七代地神五代合て十二次ゟ

業ハ十二支月ハ十二月ぞ月ハ十二時人ハ氣息運
數ぞ十二乃大腸ハ七穴腰ゟ五臟ハ七も十二
の數あり鼻ハ所主發肺ゟ出く肺ハ位西王
秋肺とゝ〳〵といふ引の物語ゟ
息吹ハ吐の物声ハ法く息るゟ系脇ハ
時出ハ形質乃始鼻ハ穴の物訓寒ハ時ハ心
死と鼻ハ花も實ゟの始なれぞ言葉も相
通ハ系なるぞ善ハ史れるす所史ハ発ぐ

かゝる類ありて人情に好き香を焚き香を求めあるいは人香
あるいは心ばえのやまひなきを求めあるいは人香
栴檀香沉檀乃油の香を堂燒飲食
まで香なくしてかうばしかるべし伊弉諾尊と御
鼻を洗ひ給ふ素盞嗚尊と化生此素盞嗚尊
なり〳〵ゆゑ豊葦原の中津國安
國とする政の捷も三種の神寶も御鼻を
洗ひ給ふ解穢の濟うし佛〳〵なる天位なり

神にも鼻のるゝまゝの也どもゝの鼻れる
さと深戒ひ自慢する慢心乃鼻と悪とその
ゆゑとぞ嘆でゝ多嘆といふ仏法ゆゑ
むとんだ者ゝ悔りやとゝのなり

口に諸乃不淨を手言天心に諸乃不淨を手不言とい
口ふ者あり心氣通舌天下に活礼國家の教勅
云親九族と始め他人い獨尚不和の縁にうゝ
出ゝ口ふ淨可畏の性舌不声神在恐舌

者所主発心之官職なり

世の中にあるが人の言の葉ハ　兼好

何かといはずあらそねどりよ

語多不為勤しい事を　太田道灌

人ハ只身のあるり息中くる事

法のまゝそもれらし果の露

口ハ五人の身の呑込ハ八岐乃蛇ともなるべし

舌ハ能切く太刀刀の如く鞘より出まで

災難の来り出ざる当りにも命を無し死と

外傷より和解なり。為交為君為世ためにて

身人ハ己の怒をいぶ恭て眼ふ命を捨まじき

事なる。病者入口災禍者出従口常に恭孔

を曳して座子を招ざるへし護る刀事を太く

響く可謂禍前後金言玉章と日ふも

出むる敵口より出る事にく身のうく

なる。持いくざる病を入りを悟うまう

言て不言といふ雖ども分あり染有遠深之致
人々惟言葉おさへたるごとくなるべしや
身に諸乃不淨を不觸天心に諸乃不淨を不觸とい
目耳鼻口と次第して。面々淨に觸ることなし。人
間万事世に交るゆゑ穢なり。高天原より
穢を祓寿い葦原に降ましくても葦
原も磨坂水揚さゆゑ伊弉諾尊黄泉
の濁を除て清めます。汚穢とても汚穢あり。

そ一言の主盡唱尊も心清そーとて清の如く
いくり。觸てゆ觸とい守宮に交ると雖
でい知ゝ色さらのなくう。万物の霊さらの人も
神明の本主なれば。神宮と絶受保て天地
の間に住とぞむ人の心代ち道と爲て
安不廣く交ゝとなすべし。神数の伝ゆて
觸ゝ不觸指り觸ゝ事い重ゞ上のこゝろ

なんぞ隨身れ後之意遠もぐくもの守心而已

意に諸乃不淨乎思天心に諸乃不淨不想とへ

此意いよ〳〵諸根にいろ〳〵と信かくもり。

上にいろ心を実にいろ心の中にくせし意をいろ

だをもいろ〳〵ものとなり。心を

神意ハ用なり心とおろごとしハ中正中心と

て心腦をいぢくりたても中にあなり。以能駅

盧嶋爲國中之柱。おろごとしハ中の心とし

言葉なり。我もの人ハ天地の中にあておろごへ

又人の中にあり。腦といふ字ハ我おろもよめり。

天地の中に人の中に心王ハ信とそ。おろ〳〵ものとの

精神凝て月ふとなてどもあれども。

五人とうん又音とも分。宮殿人名惡邪正とも

知ふ心宮に神あり。其神の生涯ハ六根

の霊光六合ハ魂神人ハきぐ天下の神物

この神宣ふたゞいざる事ものなどいろ〳〵と

いよい上の五根より有くく。鼻ハ香ヲ聞ク。舌ハ味ヲ知ル。身ハ触ヲ覚ル。意ハ法ヲ識ル。是ハ眼耳鼻舌身意の五根の生ずる所なり。草木の萌出るが如し。一大三千界の草木ハ天地の間の地ハ地ニ生ず。一時息ハ性及ぶ所の魂神の所為なり。意ハ心ヲ意の本源心の元根。意に諸の不浄と思ひてとゝのへ法に付て根本根の相貌を思ふ。

意に思ひて心ヲ想と云ふ。所に至て心ヲ想と云ふ。名ハ心に思ひ出す事なり。心ヲ想と云ふ事ハ相形貌に成て。事相形貌に成て。名ハ天下の名。悪ハ天下の悪と分明なり。名ハ貴賤あり。悪ハ貴賤あり。まづ意根に生まれ。名中に出ず。出ずるを名づけ。諸の不浄と不想と云ふ諸の不浄の

四ゆゑに。貪欲。瞋恚。愚癡。心を撹乱に惑はして。
思慮邪曲異なる間は。つゝしみ恐れて。日月に喜
怒哀楽愛憎。千萬ゝに変ずれども。
永き迷惑の中に人々は心を見
ることなり。慎敬。念の念と念と
しんの心は心と。神の神と神と。
月と神。祭れ祭れと。心御柱の不抗不
傾。天心不動地位不至り度りのなり。

思兼神は思慮ゆゑに。天照太神。岩戸に
入せ給ふ。思ひたばかりの智ゆゑに。
龍君は思則潮溢之憂。思則潮涸之憂
として。西の海と火くわ見尊に捧ぬ。伊弉諾
尊は吾不意到於不須也。幽冥汚穢之國
として。黄泉へ行給ふ。
ゆゑに。なるゝ云のなかとゝ思ふ
ゆゑに。なるゝ世なり。知る人は知る事

此さしわてる云のなかといふ所は心なれ
とうる事なりと思ふこと以外なり正念は日ごと
生じ。雜念を思ふこと止ぐるものつくめく。
雜念は正念のあこさは世乃ろ稜ぐ
神明くこの本主とのは神詭と云ぐ
神詭と神詭として。妄心以冊心ろ心時を
令傷二心神事なし。是四和清淨の如鏡
神道といふのなぐ

ろ心なり。心ろ心ゆるされぬ。心の弱とぎ
わくも除ぐ。ぐろい槙といふ。潤うて
ろ形八人ゆて心ろ融たむしの人ろいなう
意よ思わとは諸根はまろて教ゆ
及ぐ。ぐろ人ろ思ひ人と思ふ始雜計
加畏ろ服の神ろ意の神は働考ろに
ぐは倍くして倍くぐろ心ろ方法の為神
なれで云用の意は働いろ

此時に清久潔幾偈阿利とへ

前に説くの如く諸乃不浄と見る心より
諸の不浄と不見といふ心に諸のといふ
六根乃不浄と後際まで不浄に
到る清浄也。如此後際時に實乃清く
潔きと事なる也。此清く潔きと下の文に

諸法如実相とへ

諸乃法といふ上にて諸根乃諸の不浄と見る

不見といふ所先意に諸乃不浄と思ひて
心より不想といふ迄の林に法能守り後と飛し
て神明本主との神詫の通りに新と
像とのおとし像に依く新と彫るものなり。
諸法。二字。花石と書く方に書てくもむ。
また八九なり。九は八りてなく悪く諸

清潔仏性と識

諸根同前

一心は本元天心不動の心地より發の途中にて
ぬぎ捨て織しそなはりたる境界心識にも
寄織といつる境に執の深月月稼ぎと
照らせども月汚げ稼ざるがごとく

取説不可得

とへ

日本紀欽明天皇六年戊午の年佛像に表文と
添へ渡し同十三年又金銅の釈迦の像
一軀幡蓋若干・幡蓋若干・表文に

日本の天子に拜しまつりたまふこと此物法に
同公孔子も不能知と百濟國聖明王のたまふ
人も相添へ奏遣めたる物なれ共中臣
鎌子諫奏あらまして一旦は天下に不吉の事
なるべしとて御止めありそばさまに蘇我稻目天皇
に代へ佛像を初る今礼拜寺とも建立
なりぬ其子馬子は神代に未聞と云ふの
事なりとて崇峻天皇と共に誅次に忠臣

守屋大臣ともろもろ聖徳太子の御子
達とも不残皆殺大逆道あり玉入廉
天子のごとく仕奉と極悪極悪極悪討家断絶
後代よ喜悦例とりてくるこ二代の天皇と奉二
平遷事はなり。百済聖明王
周公孔子の道と不ゐ道所國乱亡滅
賊見殺見不吉乃人也皆二本ゆへなるべし。
日本紀よ本朝の人と出家もろ時へ百済国
何く接戒をもとめ。極も取説不すれと
外國の事ひとりなる事と上に略せ
神國ハ繁素乃眞實ハ道服と
大息血涙法此祝詞と捧ゆ系も備気け
也ば。乱也くく本乃系ハ服になりて
乱事得とうハ天子ハ天下ハ静遷葬
原の安國となる神代の掟乃仕ハ心道
雖とこの事也人くも或ハ心も神明本主乃

心ばかりを道に叶ひ或いは或ハ
或ハ治或ハ安と治るものの治要乃ハ難得
事実既區区として一生一心決定して神一の
道ハ不知よ遠ひて遠ひて一生成遠る事ハ
神宣説ハ甚くゆ〳〵此ハ自の祖ハ神
の言葉あらくとして妙なる美絶の文字
共とかきとして付愛憎易乃ものくく
実強の様数ハ神説のかたい学く故

神宣と始此祓と祝詞より謙奏ふ
事ハ系代の謙奏をそ今世も百海立れ賤奴とえ
ゆ大病よハ此祓才一の良薬なり
皆縦因業生 とい
神道ハ神乃の死ぐさけで神道の實ぐなり
佛道ハ佛乃死ぐ咲で佛道ハ實ぐなる
真丹の諸道も同日本ハ神國ゆ〳〵神道の
死ぐ咲くく神乃の實れ有ばして和叶

國なり。此本文ハ誠れ如神とあるハ一此國ハ
此世乃理實にくくてハうれしと大連乃
上に奏達乃意密と有深見事又彩と像と
いひ理と實といひ皆同事也心乃理ガ咲六根
に心の實ガあるとものこと

我身彼則六根清淨祭利

と感應神乃こゝろ
此神道の此秘の德化とゝ我身ゝ則
六の根清くゝ清くゝなり。六の根清くゝ清くゝ
なるゞ五臓の神君安寧なり。是皆
眼耳鼻舌身意乃林令とちゝ成して
守る境界ハ時の事なり

六根清淨！祭留我故仁五臓乃神君安寧祭利

五臓の神ハ名実に異者也。天ハ五行此の五行
人の又行ハ神ニ又十五見て天ハ元氣充滿
地の一靈感應人の性命成ニ功をとゝのへく
十八の数ゝ細ゝ。神君といふ君を人ハ方

物の霊とゝゝ。此祝詞い上に指あ山れ。播磨
国と恭敬ての神君なり。結ま日神同根一生
の神詫ま付てい人こも皆神君の理なり
道書にも五臓の神名。易くもり。医書同
じ五臓の神に付てハ五方ゑ天五味五ゑ五音
五星ホし其ハ猶紛ゝなんでも皆異ると
五臓の神君安寧なりとゝゝハ内清浄
外清浄六根に付く著濁塵埃なりさ

則で。安くやとゝゝなり。ゑ臓の神君安寧
なりとゝゝに付てハ病苦ゝゝゑ言心の神
より諸根の霊神ゝ紙書ゝる神境界
ゞ安寧なりとゝゝ人情の安寧と
ゝゝハ苦楽ゝゝる安寧なり
苦楽にとゝゝ安寧ゞ後ゝ然し安寧
とゝゝのゝ自他ゝ吉悪生死不二ゝ安寧ハ
皆吉にゝ成ゝ。随分後ゝ功徳ゝで

和らぎ霊しく妙なること明説なり

五臓乃神君安寧奈留我故に天地乃神止同根奈利と八

天地の神と同根なるとゝ神明本主なる

神宣説の通り

天地乃神止同根奈留我故に万物乃霊止同源奈利

万物の霊と同根なるとゝ八神八百万八百万

一神の分化なれば我内外清浄の時ゝ

天にあるゝ神といひ万物にあるゝ霊といひ

人にあるゝ心といふ其人にあるゝ心なるが中

神明本主といふ御神詞乃通り清かい

神濁るとは人清濁の心ゝ穢ることを

せざる所にて人たゝ清めて清めて改めて

改めて改めて改めて動で動で動で動で此

動の清濁ゆゝことを見て穢せざる人と穢る

人と天地のかゝりなり天八清地八濁る人と

中間万物乃霊長なり

万物乃霊止同粮祭留我故仁所為無願而不成就
之彩といふ君うて天下の韓酒三災七難
彩く邪神彩亂を人民八多中祭
治めうせのよ所ら彩わうく其の彩を
本れ国外清浄の祓ハ伊弉諾尊うり事
記つて神道王道乃根本なりと所説今の
彩も私の彩ハ此るよりあるの願而無不成就
願ふ所うまり。六根清浄なりうば
心神と傷しむる事ハ世ざる少人に旨乃叫ん
彩うれで所いるといふに伊弉諾伊弉冉ハ大
八洲國及天下れ君たるべきりのをせざんや
彩のハ彩皆成就せり。天照太神の皇孫寶
祚之隆當與天壤無窮者矣この神勅於
乎かうせのこの其彩ハ俗神孫の不絶
事うこ三國安政乃御願。神武天皇
皇祖神れ積慶皇暉させるふ。恢弘大要系

陽光宅天下とのゆへ形容して色示す人の
作りてある王道也神道也天照大屋根太玉
二神の願ひ天岩戸と開き常闇に雲晴日
月の光代にも不変或人民も新雨止雨高雅
高貴國災ハ為言ひ中に龍尚上天と人の
万物の長として治世要道の形と可有事
なり。實の神國の人なれ共神國の如し如
事代主さどとも天照太神に従ひ奉神しる事

とも形して不叶事

元上靈寶神道加持

元上ハ高天原の
号霊靈寶八十種に神に敗霊者一切の諸
神ゆ事ゆ祈霊十種八瓮都鏡一遍
都鏡一八握剣一生玉一死反玉一足玉一道反玉一
蛇比礼一蜂比礼一品物比礼一　君乃ゑ種臣下
の十種合神して万代治世の寶密其神源
と要りて人ゑを安國に住ゆ上に六根乃

樹清よかるべく不覩四つて不覩くいつく。著念
著心と切断をるハ此神劔の徳なり。諸乃
不淨と見るも。亦此神鏡の徳なり実に
盈飢都鏡遏都鏡二面原形重位の位あるを
ど猶心氏付くく可觀事ゆへ十種くるに神号
亦もこの也ても。其体ハ所光なりをも四つく
死反王とハ精根猶くく死ゝ乃るゞくなるを
此禊の徳ゆく穢悪ハ是も死反のゆへ徳

なり蜂乃比礼とハ蜂ハ義虫にて他の蜂
ゆを随順ざるりのなるゆ此蜂乃比礼とゆ
神も。神猛皮の八神殿の中にあり
天照太神及神孫の王道神道ゆ乃本
ことゆ名ハゆさ所より二本比美敷当ゆるる
若ハ蜂乃比礼の罪人なるゆ。不物の比
礼ハ保食神とそゆ人民命と穢ゆの立穀
の精神又頻鏡乃紙形ハ神民と栽神

軍れ寶器を軍とゝいふこゝろ
ゆゝく神軍乃体に重これ相伝ちゝく神秘
ゐれ長と乃切紙と面授口決ゆゝく。神道
とゝいふ神ハ天に幸神ど幸三光又幸月地に
幸神ど幸又ハ万物と幸ど人に幸神と又音
立味幸ど幸と幸ゆゝど。天に神。地に霊。人にて
ゆゝく天地に自然の道ゆゝ。七代又代人代。
道とハ万物にみち。ちゝゆゝとゝふ和訓ゆゝ

の道あり。此神の道とゝふゝ加持とゝ変に
居くかゝとゝ知の幸ど神術也術也術也術也
神切ゝ宮の時移と治道とゝ麻酒
香取ゝ鹿神の座名一物のゝ上に元加持の事
物と奥とゝハ榜乃名結にゝゝ鹿ゝ藻の形
とゝいふ神通加持。鹿幸ど行んとゝゝも
幸ゝて行所ゝ神変加持。真言ゝゝ
ゝと所ゝ神力加持なゝ。此

祓のよしに付くも。惡魔と知所が神道の
傳授と物變とする所が神變其傳授清
め祓たる所が神力加持人力加持此二ツ
の加持に付くも。童子れ儀あり又四重紀に
も日本紀にも。嚴呪詛とゝ事あり。其外
禁厭之法とも。一切の祓ゞ皆三ツの加持い
不離眞一たるのゞ。人〻の六根清淨と見
付る所が神道と物變とする所が神變

眞言物變とする神力人力ゞ共に皆又加持力
なり。此加持と一心に能元時い本元の高天原に
立給る神ゝ為れ為清淨りなく部る所が成
能神道なく。神明本主とゝ所に部る書中
なれども。人〻れ濁著が惡き風波〻ゝ
根本原本とを憂吟。さ惡よりゝ
天照太神の神宣と受濁ゞ高皇大運の誠
にあとばされる祝詞也。御も光上靈寶と

八方世にもてなされる月民震旦日本又此
月民震旦にもてなされる日本。月民震旦
にもてなされるとハ三國なる天竺也人皆
時をあもてなす。今梵漢ハ人ハ天竺唐國の
人也。天竺也。神孫祖廟也不變
ハ内ハ兩宮伊勢神代の觀請の靈神。
出雲拝藥神社。三輪天香久山其外ハ三
千二百三十余座乃神社。今播磨国三

種といひ十種といひ。仍乘して五常八方國
にもなり。此十種三種乃道君とハ。臣とハ
民也受續ぐ。忠者と佞人偽の道ハ則
光上靈寶唯一宗源神道也十種三種ハ
亜德の行ふ也。神國といひ。神道と云
王道といひ其加持ハ君乃加持。臣下を
陛下ハ加持。人民ハ人民の一心ハ神明の加持
加ふ。太元尊神ハ五柱

和光塵の障りの月やどりとうるが則神道の胷月无上霊寶无上霊寶

内 天照皇大神 勢州渡會郡御鎮座

日高日宮 堺列名河神楽開祭吉田

神武天皇御勸請人皇最初本朝孟雙之神地中居後於足跡白俗一名人社也

外 豊受大神宮 同

八幡宮 堺名所男山二訪宗廟

住吉大神宮 ○本之神社者 [illegible] 海陸[illegible]

春日大明神 君臣合躰

杵築神社 出雲大社 神代之勸請法礼根本廣厚之神秘立供神

布留神社 部霊神欽朝欽國欽退治 二国之雙之武神

三輪大明神 神代之勸請神秘之事教之有

熱田大神宮 神代之神級東朝之寶

諏方大明神　軍神異敵退治之神験なく同朋敵

賀茂大神宮　王城一宮

稲荷大明神　五穀之精神使者に白狐神ありて之祈り霊妙有り

熊野三所大神

三千一百三十餘社

天神地祇八百万神

日若宮

東照宮

[illegible]月の比つゝ肥前国七郡の内石[illegible]
[illegible]しい人に祈りて人おく釈[illegible]の
清[illegible]をもあげて人[illegible]
[illegible]を誅す遠和[illegible]
[illegible]中長六尺二寸の板をとり出
[illegible]小子猶[illegible]顔をおこし運移日月[illegible]
男文字に女文字をはめ又和解釈文をし
加へ書様をむとなしおりひとちゝ思ひ[illegible]

ゝゝ基礎の有國かすれ神道神教もまた
ばたまを清めよ事ふかわをれ身の老ぬるを
不覚なるをとれ拙ゝ世れはも
過ぬをと疎族者屬子ゝ友どもれ友どち
ゝそしひろゝまゝ世そゝおりひ必要も毎日
不怠怠　天神地祇と奉敬あまを
伊弉諾尊伊弉冊尊祖神ふ父母をそ
へて奉敬神社文　内外の神祇及
日高日宮ゝ法奉　宮常はゝめゝり今乃
御代の　宮者を女敬あ沢ふ　毎日大明神
におゝふく代ゝの石宮人ゝり今れ代の石皮
人ゝで女敬神沢ふ
熊清水大神に代ゝの　大將軍ゝり今れ
代の　大將軍ゝてを女敬祥ゝ夏國てゝ人
ゝふの　一宮ゝゝふゝの　御座ゝ國ゝ祭ゝ夏
を法ゝゝ女敬神沢ふ　廟ゝゝ神道を

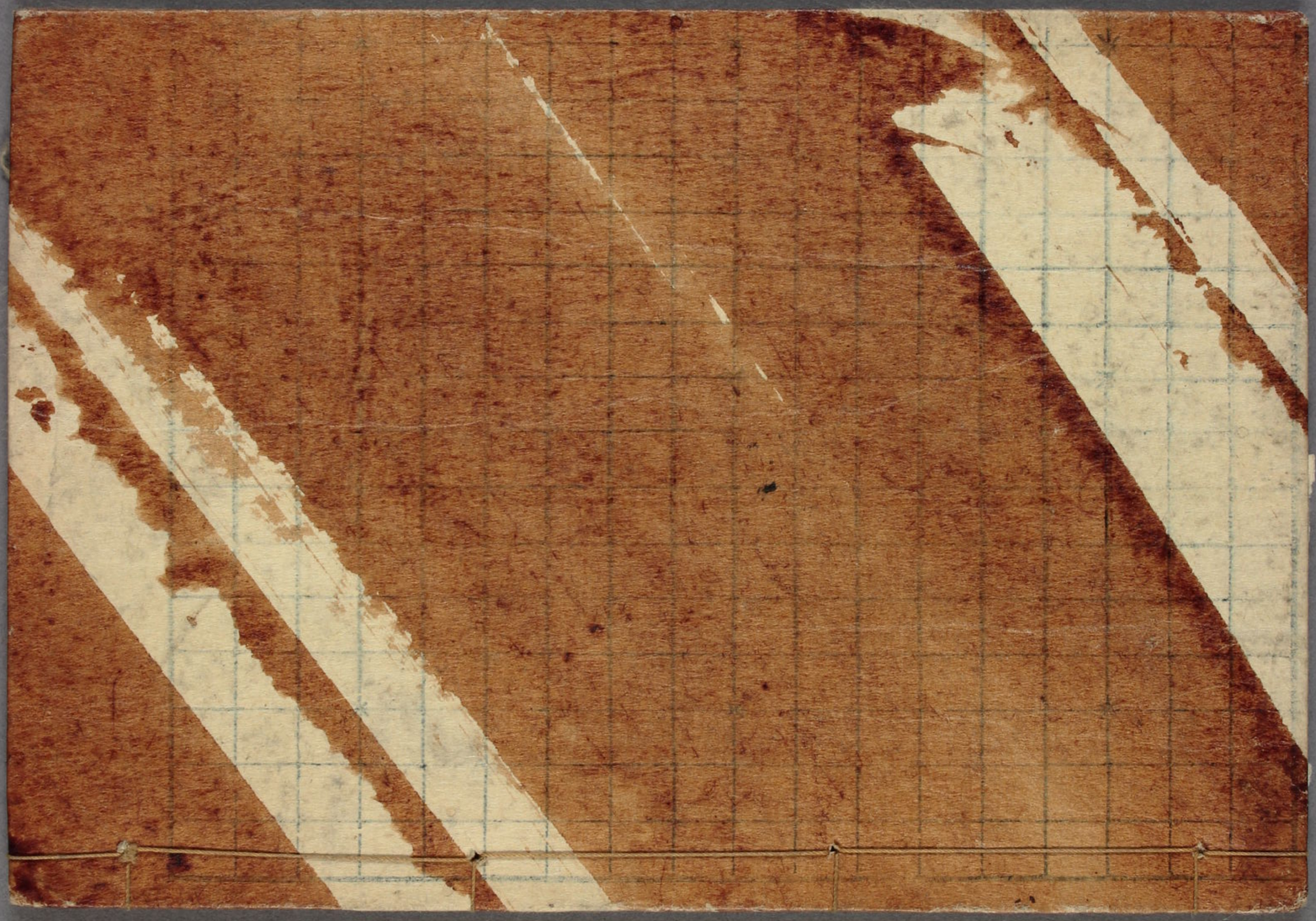
生れ沢ふ他国の二代類の歌をとし神歌へ
てわぐふをもぐ[illegible]たとわ[illegible]に拾ふと仏歌
の歌歌文を下官に撰てしほうつる[illegible]
詠つ迄いひをれと再こに朝こ来り[illegible]
[illegible]ほこの[illegible]の色分閑こ迄歌紀わがの[illegible]毎
ひとをる志濃の堀ふいほ[illegible]ち[illegible]分[illegible]
歌ふのそりれゆ[illegible]ち[illegible]ひ[illegible]
[illegible]ふ杉[illegible]中は[illegible]乃

あわさあさこ上下の庶こ弱こ[illegible]て
書集ゆ[illegible]沢ふ和[illegible]十五日秋[illegible]に晴和く
岩[illegible]海へ歌[illegible]ふ文字[illegible]ひ[illegible]こ奇こ
おのぼ[illegible]歌[illegible]和風に来[illegible]
[illegible]こ[illegible]の神こ[illegible]を後に教て田ひ
わふとれ十年[illegible]ぐ[illegible]の[illegible]
[illegible]に[illegible]こ[illegible]こ[illegible]あや
こ[illegible]歌のいづ[illegible]こ[illegible]拾り[illegible]

奇ふかくてしの他法教を傳へ法ふ五日本
の道ふあくそをとありくと来て直ふ面伝に
くばくひにをぶをうどくてさををうる
づふ求ふ法をもそそそどくふ釈云の名を
松風鈴と鶏さ世の人御の産土神と
源方大明神伯耆大明神北浦義國の
一宮と伯耆の大神と名をもふ家のあるく
し伯耆をくらくあくとあくと二業

の松ふ世系代も常盤御前の子ふ為神
ふうりねぐさと思ふ方ふ伝ふ浦の家ふ名ふてなく
てもらくふもわるふ思ふ名ふ
こたひのあくあくあさせる中ふ用
ひくるくらひ法帰ふ竹あふ
くくくくてくるふ庵土ちうふ
いあぐ鍵別ふ新る来くふ家墨の産

かぐ〳〵漕ぎのぼる舟あり和歌乃
浦にとゝろ〳〵へ吹風もなくて波穏にして
こゝ〳〵出船を函ゝし待つる

長崎青木主計頭

藤原永弘著